

令和2年度 四国横断自動車道 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会
第12回検討会での質問に対する回答について

第12回検討会では傍聴者の方々から意見・要望を頂きました。

○意見・要望－1

①標本の保管について

底生生物の重要種について、標本保管されていない？ことにおどろきました。しらさぎ大橋は、すべて、重要種は、徳島県立博物館に整理、保管されているときいています。特に 貴重種、重要種（同定が、あいまいかもしれないもの）は、標本整理し、博物館に保管をお願いします。地域資源として大切です。

◆回答－1

採取した底生生物の保管については、NEXCOにおいて適切かつ永続的に保管を行うことは困難であるため、例えば徳島県立博物館といった然るべき保管場所にて適切に保管することが望ましいと考えられます。これまでの調査では、調査会社にてある程度の期間保管を行った後に処分しておりますので、今後の調査にて得た重要種等の保管方法について各委員に相談し、適切に対応してまいります。

○意見・要望－2

②検討会委員のご意見、評価知見を入れた形で文章化して、モニタリング調査の総合評価報告書を作成してください。単なるデータ集だけに、終わらせるのは、もったいないです。これだけ大きな橋工事ですので環境配慮を施した点など、貴重な調査データ評価は、全国的にも貴重な財産になると思います。しらさぎ大橋は、評価書が、作成されています。

◆回答－2

阿波しらさぎ大橋整備事業では、事業の最後に総合評価報告書が作成されていることを確認しています。本事業においても、環境モニタリング調査結果の総合的な報告結果が必要であると考えているため、その取りまとめ方法等については、各委員に相談しながら適切に進めてまいります。

○意見・要望－3

③今回 事前にお問い合わせしましたが、日程もせまっていることからむずかしかったと思います全国的な に注目される 大河口に架ける 橋 であり、重要インフラでもあることから、コロナ予防も考え次から、オンラインで、傍聴できるよう公開してください。

◆回答－ 3

本検討会開催時点で猛威を振るっている新型コロナウイルスの影響が、今後どのように落ち着いていくのか不明ですが、次回の検討会開催時における情勢を踏まえて、適切に検討会を開催してまいります。

○意見・要望－ 4

完成後の橋の照明が野鳥にあたえる影響に大きな問題があります。シラサギ大橋ではランカンのLED照明と車の照明により、ヘビのダ行状になり夜間 野鳥が飛びさる。

◆回答－ 4

吉野川大橋（仮称）は、道路上に照明を設置しない構造としております。また、第 6 回環境部会（平成 27 年 10 月 2 日開催）、第 6 回検討会（平成 27 年 10 月 27 日開催）で夜間走行車両のヘッドライトによるシギ・チドリ類への影響に関する検討を行っており、影響がわずかであること予測されております。詳しくは第 6 回環境部会、第 6 回検討会資料をご確認ください。

■第 6 回環境部会：<https://corp.w-nexco.co.jp/newly/h27/1002/>

第 6 回検討会：<https://corp.w-nexco.co.jp/newly/h27/1027/>

○意見・要望－ 5

鳥類調査で 飛翔高度が架橋工事の結果高くなるようだ。土部工ができると更に河口が閉鎖的になるため、ますます鳥類の河口を越えた移動が難しくなるだろう。このような鳥類の橋を越えた移動の調査が橋桁が完成されるまでとされているようだが架橋による懸念は 実際に供用されて、車が通行し、照明が点灯されてからも、残されている。ぜひ、完工、そして供用後数年まで、鳥類飛翔調査を継続して頂けるよう希望する。

◆回答－ 5

鳥類調査は、橋桁が完成してから 2 年間の調査を行う予定としており、予定では令和 5 年夏頃まで調査を行います。また、四国横断自動車道（徳島南部自動車道）は令和 3 年度内の完成を目指しておりますので、自動車走行による影響、ヘッドライトによる影響も調査を行う予定です。なお、ヘッドライトの影響については上記の回答－ 4 をご確認ください。
